

平成 24 年度 補助事業評価（事後評価）

農道整備事業（一般農道整備事業）

かた む さり

片無去地区

【基礎資料】

平成 25 年 2 月

農村振興局 整備部 農村整備官

農道整備事業（一般農道整備事業）「片無去地区」

〈 事業概要 〉

○ 事業の目的

本地区は、釧路総合振興局管内の東方に位置する厚岸町市街地の西方にあり、酪農を基幹産業とする地域である。経営の合理化を図るために大型農業機械の導入を図っていたところであるが、現況の幹線農道は幅員が不足しており、支線農道は融雪時及び降雨時の泥濘化により集乳車の走行に支障を来していた。このため、本事業で幹線農道と支線農道を一体的に整備し、大型の農業機械と集乳車の走行の円滑化を図り、農業経営の安定化と輸送の合理化の実現を目指す。

- 関係市町村 : 厚岸郡厚岸町
- 受益面積 : 926ha
- 受益者数 : 15戸
- 総事業費 : 1,077 百万円
- 延長 : L=7.9km（幹線農道 L=7.3km、支線農道 L=0.6km）
- 幅員 : 幹線農道 6.0～7.5m（車道幅員 4.0～5.5m）
支線農道 5.0m（車道幅員 3.0m）
- 工期 : 平成8年度～平成18年度

【状況写真】

○ 整備前



○ 整備後



○ 集乳状況



① 幹線農道を経由して、各酪農家の施設
に向かう



② 支線農道を経由して酪農家の施設へ



③ 牛舎前で方向転換



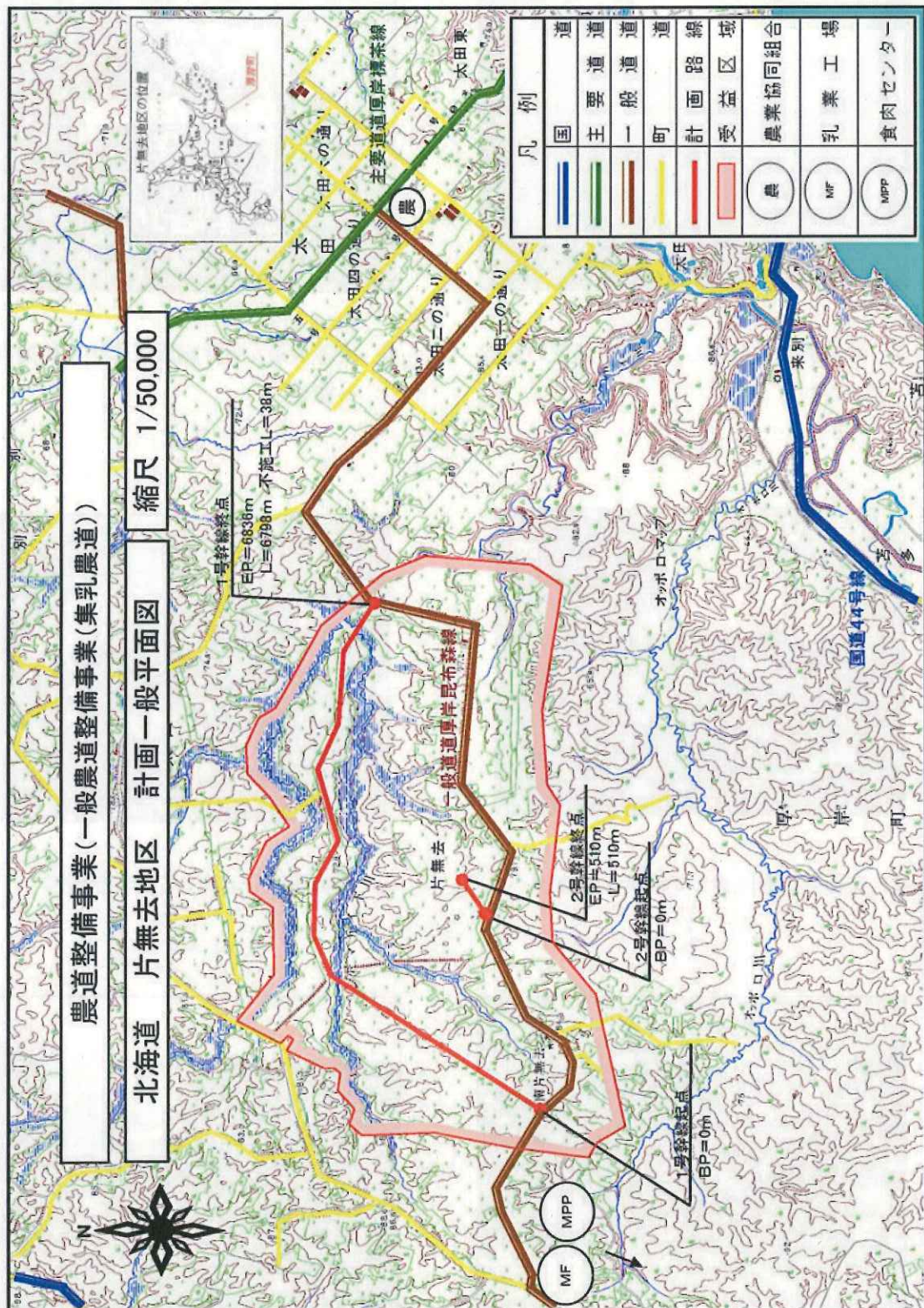
⑥ 支線農道から幹線農道に出て乳業向上
へ搬送



⑤ 支線農道を経由して生乳を搬送



④ バルククーラーから生乳の積み込み



1 農作物等の生産量の変化

○本地域は酪農専業地帯であり、作付作物は全て牧草となっており、変化は生じていない。

○地区内の離農跡地の一部が地区外の経営体に継承されたため、地区内の集乳量が減少したことにより牛乳の生産量が減少している。

(集乳農家 17戸→13戸)

○また、生産量の減少と乳価の下落により生産額が減少している。

(乳価 83円/kg→73円/kg)

○本地域全体で牧草の反収が減少しており牧草の生産量が減少している。

(反収 4,800kg/10a→3,650kg/10a)

区 分	事業実施前 (平成7年)			評価時点 (平成23年)		
	作付面積 (ha)	生産量 (t)	生産額 (百万円)	作付面積 (ha)	生産量 (t)	生産額 (百万円)
牛乳	818	5,988	497	760	4,095	299
牧草	926	44,448	—	926	33,827	—
計	926	50,436	497	926	37,922	299

(出典：事業計画書、釧路太田農協調べ、厚岸町酪農・肉用牛生産近代化計画)

2 走行経費の節減

○農道が拡幅・舗装整備されたことにより、集乳車両の大型化に伴う集乳の合理化と走行速度の向上が図られ、延べ集乳走行時間の短縮及び牧草の運搬時間が短縮し、集乳コストの低減など営農経費の節減が図られている。

	事業実施前 (平成7年)	計画	評価時点 (平成23年)
牛乳(延べ集乳走行時間)	3,877hr	1,638hr	1,125hr
牧草(運搬距離1.0km)	4分	2分	2分

(出典：事業計画書、釧路太田農協調べ、厚岸町酪農・肉用牛生産近代化計画)

○農道が拡幅・舗装整備されたことにより、各農家から牧草地までの通作時間が短縮している。

	事業実施前 (平成 7 年)	計画	評価時点 (平成 23 年)
通作時間 (距離 1.0km)	4 分	2 分	2 分

(出典：事業計画書、釧路太田農協調べ)

○農道が拡幅・舗装整備されたことにより、一般交通に係る走行時間の短縮が図られている。

	事業実施前 (平成 7 年)	計画	評価時点 (平成 23 年)
走行時間 (距離 3.7km)	14 分	5 分	5 分

(出典：事業計画書、評価時点は図測による)

3 農業生産性の向上

- 農道が拡幅・舗装整備されたことにより、大型車両の円滑な通行が可能となったことから、農業機械や集乳車の大型化が図られている。
- 農作業の省力化や経営の合理化を図るため、牧草の刈り取り・運搬などでコントラクターによる作業受委託の導入が進んでいる。

<地区における集乳車の運行状況>

	事業実施前 (平成 7 年)	評価時点 (平成 23 年)
4 t 車	2 台	0 台
6 t 車	2 台	0 台
12 t 車	0 台	2 台

(出典：事業計画書、釧路太田農協調べ)

4 農業構造の改善

- 近年は離農による酪農戸数の減少が進むものの、農地は地域の他の経営体に継承されていることから 1 戸当たりの経営規模は拡大している。

<経営規模別農家数>

区分	事業実施前		評価時点	
	(平成7年)	割合(%)	(平成23年)	割合(%)
10ha～20ha	1戸	5.0	0戸	0.0
20ha～30ha	1戸	5.0	1戸	6.7
30ha～40ha	4戸	20.0	2戸	13.3
40ha～50ha	5戸	25.0	1戸	6.7
50ha～60ha	6戸	35.0	4戸	26.7
60ha～70ha	2戸	10.0	3戸	20.0
70ha～80ha	1戸	5.0	2戸	13.3
80ha～90ha	0戸	0.0	0戸	0.0
90ha～100ha	0戸	0.0	2戸	13.3
合 計	20戸		15戸	

(出典：出典：厚岸町役場産業振興課調べ)

<厚岸町トラクター保有状況>

区分	事業実施前		評価時点	
	(平成7年)	割合(%)	(平成23年)	割合(%)
50PS未満	6台	9.7	0台	0.0
50～70PS	15台	24.2	5台	9.8
70～100PS	38台	61.3	31台	60.8
100PS以上	3台	4.8	15台	29.4
合 計	62台		51台	

(出典：釧路太田農協調べ)

5 社会経済情勢の変化

(1) 産業別就業者数

○産業別就業人口については、第1次産業の割合が平成7年の36.3%から平成22年の31.2%に減少している。

○平成22年の第1次産業の割合は北海道全体の7.2%より大きく、本地域においては第1次産業が基幹産業となっている。

<産業別就業人口>

(単位：人)

	平成 7 年		平成 22 年	
		割合 (%)		割合 (%)
一次産業計	2,820	36.3%	1,826	31.2%
二次産業計	1,633	21.0%	1,254	21.4%
三次産業計	3,311	42.7%	2,775	47.4%
合 計	7,764		5,855	

(出典：事業計画書、国勢調査)

(2) 地域農業の動向

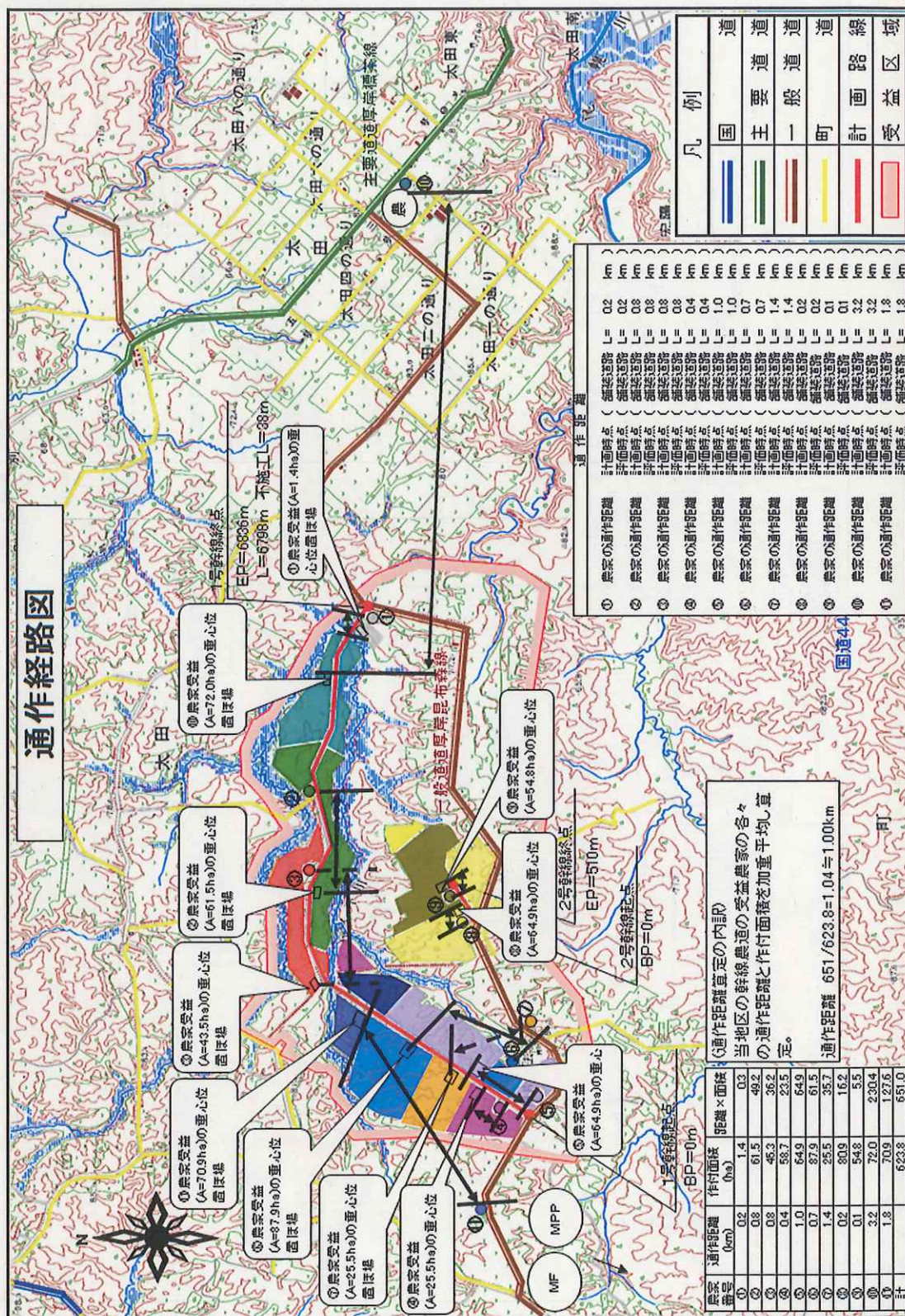
○平成 7 年と平成 22 年を比較すると、耕地面積については 3.5%減少し、農家戸数 29.2%減少し、農業就業人口は 28.9%減少している。また、65 歳以上の農業就業人口割合は 0.9%増加している。

○一方で、農家 1 戸当たりの経営面積及び認定農業者数は増加している。

	平成 7 年	平成 22 年	増減率
耕地面積	7,374ha	7,113ha	△3.5%
農家戸数	202 戸	143 戸	△29.2%
農業就業人口	491 人	349 人	△28.9%
うち 65 歳以上 (割合)	93 人 (18.9%)	69 人 (19.8%)	△25.8% (0.9%)
経営面積	36.51ha	53.89ha	47.6%
認定農業者数	81 人	111 人	37.0%

(出典：農林業センサス、国勢調査、「農業経営改善計画の認定状況」の報告数値)

【片無去地区 通作経路図】



【片無去地区 一般交通経路図】

